宗像市市民参画等推進審議会会議録（要旨）

日 時	平成26年5月28日（水）8：45～18：45
場 所	メイトム宗像103、202会議室
委 員	<p>■ 井上豊久 、■ 志岐宏美 、■ 辻洋子 、■ 東博子 、■ 前田誠 ■ 松永年生 、□ 南博 、■ 宮崎弘子 、■ 吉田晴希</p> <p style="text-align: right;">（五十音順、敬称略）</p>
事務局	<p>コミュニティ・協働推進課；村上、吉永、中脇、福島、新頭、合島 元気な島づくり課；中野、花田、武丸 市民活動交流館館長；井上 むなかた市民フォーラム；梶栗、木村、種田、牟田、人見、雪松</p>

1. 審査会

①個別審査

【103会議室分】

1、みさき寺子屋の会「地域が寺子屋！コミュニティ寺子屋運動事業」

団体から、提案内容について説明。

●学習困難な子ども達に来ていただくのは大変だったと思うが、どのようにして来ていただけるようになったか。

⇒中学生は来てもらえないのが現状。部活動が忙しいということもあろうが、小学生に交じってということに抵抗を感じるようで、そのような場合は、中学生用に別の部屋を準備する。長期休暇の時にポツポツと来る程度。元々寺子屋に来ていた子が、中学生になって兄弟を連れてくるなど。

●参加者について、小学生と中学生の内訳は。

⇒去年は42回で延べ人数633人だが、殆どが小学生。夏休みの1人2人位が中学生。

●学生が主体になって色々な企画をとということだが、反面騒がしくなることがあるなどとされているが、大人の方と大学生の連携はどのようにされているか。

⇒元々の行い方が、自分が好きな時間に来て帰るなど自由に設けていたが、ルーズになってきていて、大学生も子ども達に年齢が近いので友達感覚になってしまって、最初はそれを許していたが、どうすればよいかを学生と方法を考えて、30分なら30分、1時間なら1時間で区切って、それを積み重ねていって、最後は表にした。子ども達が何時間居たかをグラフにしてくれるので、それをただで2回目でグンと増えた。ちょっとした発想だが、私たちでは思いつかない。そういったことも学校の先生と相談していただいて、40分や1時間は長すぎるのではということで、中休みを長くするなどでも成果が出た。新しいことは必要だと感じた。私たちでは思いつかないことをドンドン言ってくるので、大変助かっている。

●時間は4時半から6時までということで、6時になると暗くなるし送り迎えというのは、保護者が迎えにくるとか、安全面については去年も質問したと思うが。

⇒1, 2年生は、17時までに終わるようにしている。昨年指摘いただいた後に、緊急連絡網を表にした。学校にも協力していただいて、参加するか参加しないか、緊急連絡先を教えてください手紙を配って、何かあったときはできるだけ早く対応できるようにした。

●子ども達は登録制にしていたか。

⇒登録制ではなく、来たい人は誰でも来ていいよということにしている。続けて来ている人で、緊急連絡先に記載されていない人は、もう一度手紙を出して連絡先を記入してもらうようにしている。

●吉武でも取り組んでいるが、情報交換などは行ったか。交流などは。

⇒交流はない。一度訪問しようかと思ったが。

●他のコミュニティからの視察は。

⇒特にない。大学生が近くにおらず絶対数も少ない。それでもコミュニティ広報紙を見てお手伝いの申し出があったりしている。1人増えるだけで大変心強い。

●今年が3年目になるが、どのようにしてこの活動を維持していく予定か。

⇒去年と違うところは、企画提案型にさせていただいて、今コミュニティに話を持って行っているが、協力をしていただきながら継続させていきたいということで、検討をしてもらえるとという約束はもらっているが。それまでは次世代育成型だった。

企画提案型のコミュニティとの連携という枠で、企画提案型に変わっている。補助率は変わるが。

貸館料も相談させていただきながら、大学生に岬まで来てもらうには拘束の時間が長くなるので、簡素化しながら、貸館料もコミュニティと相談させていただきながら、それでいけるのではないかと思う。バザーも色々な祭りで出させていただいているが、収入ははっきり分からない。その他、寄付金でサポーターを募りたい。子ども達の月謝のようなものも考えてはいるが、それで本当に来てくれるだろうかという心配が先に立ってしまって、実践したことがなかった。そこも考えながら、子ども達が勉強する場を提供したいということで、サポーターを募る準備をしている。

●地域全体で子ども達をサポートしていく仕組みを作ろうということか。

⇒子ども達が習いに行っているお母さん達にもサポーターになっていただこうかと、月謝で1回幾らというよりも、その方が良いのではと、それを1年十分検討しながら進めていきたい。

●どのような場で話し合いをしているのか。

⇒代表者を中心に、保護者の方と話している。

●意見交換したり相談したりという場はあるのか。

⇒場を設けることはないが、寺子屋の時間になったらメンバーが集まってくるので。みなさん仕事をされている方なので、時間があつたら見に来てくれるという感じ。

●地域とのつながりということでお祭りとかに関わられるということだが、実際にはどのように関わっているのか。

⇒一昨年はメイトム春祭りに。最初料金設定を失敗して大変だったが、その後は岬地区

の文化祭や夏祭りに出店している。主に地元の鶏の焼き肉とか魚の干物など。

●子ども達はその時どのような関わりか。

⇒ポップコーンができる時は、それを手伝ってもらっている。その時は、岬寺子屋の会のシールを作って、それを貼ってアピールしている。岬地区中心なので、あまり売り上げはない。保護者にも協力いただいている。子どもが大きくなった方も入っていただいている。

●岬の寺子屋の場合は、宗像市の中でも先駆的な取り組み。後に続けという動きが各地区であるので、そうであれば岬地区から情報を発信して、そういう取り組みもしてほしい。申請書にも市内の各コミュニティにおいて同様の取り組みができるような仕組みづくりをすると書かれており、情報発信をするということになると思うが、何か取り組みはあるのか。

⇒寺子屋でも各地区で形態が違っており、岬に関してはコミセンが遠いので、よその寺子屋とは形態が違うので、むしろ私たちの参考にさせていただきたいと。玄海東小学校は元々子どもが少ないので、そういった子がどうしたら魅力を感じるだろうかということなど、色々聞きたいと思っている。

●学生たちの報償費に対する反応は。

⇒不満は全くない。2人までとさせていただいているが、時給はいらないので見学させてほしいという学生もいる。

●どうやって来ているのか。

⇒バイクなど。時間がないときは送るときもある。ものすごく一生懸命な人もいて、寺子屋の後に授業がある場合など、続けていただきたいので、双方協力し合っている。

●担当課からは何かあるか。

⇒先駆的な取り組みということで、岬は学校とかではなくて場所が違う所。そして大学生が入っていただいて、地域の人巻き込んでということで、地域の方に話を聞いたが、子ども達に声をかけやすくなったなど、そういう部分での地域の活性化につながっているということで、今後も是非続けてほしいと考えている。

2、玄海寺子屋にじいろの会「玄海寺子屋事業（にじいろ教室）」

団体から、提案内容について説明

●この事業を始めるにあたって、地域でこのようにしようなど、何かあったら聞かせてほしい。

⇒玄海小学校の前校長から、自分の経験の中でこういう風なことをしたらどうかという話をいただいた。それで、ボランティアを募って1年間とおしてやったが、その中で学校の学習、家庭での学習とは違ったこの教室での学習というものが、本当によかったと。子ども達も生き生きしている、制約されない、でも分からないところはきちんと教えるという、そのような所で受け入れてもらった。長く続けていくためにも組織を作っていこうと、今回申請をあげた。

●前年度からやられているようだが、今年度も新しく募集という形でやるのか。学校にチラシとか置いて。

⇒募集要項を学校に置いて、配っていただく。全校生徒が100人満たない。スポーツをやっている子もいるが、昨年度は60人位の参加があった。欠席は病気等なので、殆ど毎日50人は参加している。

●その時の行き帰りはどうしているのか。

⇒学校からコミュニティまで、先生が引率する。確認事項の中に、平日の放課後からは学校の職員が引率することとなっている。家に帰らず直接。帰りは保護者が迎えにくることが原則。迎えに来ていただかないと帰られないということもあって。

●夏休み中はどうしているか。

⇒夏休み期間は原則休みにしている。その中で、体験学習を考えている。子ども達に何かを授業の他に体験をしようということ。

●今年度の実施スケジュールには、夏休み中の補充学習が挙げられているが。

⇒それを体験学習と一緒に。

●補充学習もやるし体験学習もするということか。その時の子どもさん送迎は。

⇒親が行う。この中に保護者代表も入っている。

●実施体制の中で、玄海コミュニティ関係の有志のみなさんというのがあるが、どういう方たちで何人くらいおられるのか。

⇒関わっておられる方はPTAの関わり、有志の方。学習の中に関わってもらっているのが10人、学生が昨年までは3人、今年は3人ないし4人で、常時3人は来てくれるように、シフトを組んでやる。授業は50人から60人という大人数なので、地域指導員として10人登録している。ほぼ毎回来ていただくことになるので、14、5人は登録いただきたい。

●コミュニティ関係の有志とあるが。

⇒その10人の方が、何らかの形でコミュニティに関係がある、ということで、地域の方。青少年部会にも入っているし、福祉会にも入っているということ。

●必ずしも先生のOB、経験者ということではないのか。

⇒この中に1人2人いる。子育てを終わった方ということをお願いしている。

●予算書の中の報償費の講師とは、それに該当する方のことか。

⇒1人だけを。大学生を3、4人お願いしており、その中の1人だけは補助という意味でお願いします。あとの旅費は、地域の指導員9人ないし10人の方で、コミュニティバスで来ていただくことを考えている。学生については旅費はない。

●子ども達から授業料、参加料というものを徴収しようかという議論は、立ち上がりの時にあったか。

⇒なかった。

●子ども達を登録制でやる、ということはないか。

⇒今のところは考えていない。

3年後は、何らかの形で負担をしていただかないと、補助金が切れて事業をやめるかということでは、何のために始めたか分からなくなる。長く続けるのが目的なので、3年間で考えていきたい。

●自己資金について、コミュニティ運営協議会からとのことだが、コミュニティの予算のどのような費目から支出されるのか。

⇒全体事業というものがある。この中で、まちづくり交付金を除いた自主財源の部分で出している。昨年はコミュニティの事業として行ったが、負担も大きいので補助事業に乗せている。

●需用費の中で、レターケースが 12,000 円で 2 個分か。その用途は。

⇒子どもの人数が多いので、プリントを入れなければいけない。1 年から 6 年までのプリントを、宿題だけではなくて、先生や業者からもらったプリントをコピーして、それを月別又は子ども別に、10 段のレターケースを 2 台、それを部屋の中に置いておいて、そこから必ず出して子どもに配る。

●スタッフユニフォームは。

⇒子どもが 50 人位いる、その中に学生さんと地域のボランティアさん、それを分けるために、名札や腕章を考えていたが、ジャンパーなどの貸与で考えてみた。

スタッフユニフォームを着ることで、指導員としての見分けがつく。

●需用費の学習会資料は。

⇒レターケース費用に含まれている。対象は子ども用で、大人の分は含んでいない。

●指導機能の向上とあるが、どのような形で行うつもりか。

⇒子ども達を教えながら、指導員が能力を付けていってほしい。子どもと一緒にやって、子どもと関わった時に、自分で勉強してください、ということ。

●特別に研修を考えているということではないということか。

⇒指導員の資質向上のために必要であれば、今後の課題になる。点数付や学生の補助、時には地元の文化や歴史について話をさせていただく、ということ想定している。

6 年生になると非常に難しくなるので、このような指導が良いなど、内々の研修などは行っていきたいと考えている。

●匠の会や読み聞かせの会などがあるが、何か関係は。

⇒全く別。子どもの場所づくりとの連動はどうだろうかと考えている。通学合宿も考えているが、子どもを宿泊させるのはどうかと。当地区は自然の家があるので、そこが利用できるかとも思うが、県の事業は 4 泊 5 日だったので、それよりも 1 日だけと考えていたので、夏休みの体験学習となった。ただ、何かとは一緒にやりたいと思っている。

3、NPO 法人幸せな家庭環境をつくる会宮若支部「子育て Q-BU つみきであそぼ」

団体から、提案内容について説明。

●何千個という積み木は家庭や個人では持てないし、このような感じで遊べる所はないし、ここならはだと思う。3 年の補助金終了後も続けられてほしいと思うので、何らかの対策を考えてみてはどうか。出張積み木にも行っているとのことだが、そのときは経費をもらうのか。

⇒出張のときに限っては、他にも同じ団体があるので、講師料と旅費を決めて負担いただいている。子育てサロンや子ども会、幼稚園などに呼ばれた際にいただいたものを、会の蓄えとさせていただいている。金額設定をきちんとした方が良いと思うが、それが

課題。

●出張積み木を実施している旨がしっかりあると、頼む方も予算が組みやすいし分かると思うので、チラシのようなものを作ると見やすいと思う。考えていただければ。

●ルックルック講座などに登録していただくことは可能か。

⇒3年間終了後の団体には案内している。

●自己資金は、個人的な支出か。登録制にしてあるが、どのような方法でどのような情報で登録しているのか。

⇒初めて来られた方は、差し支えなければ住所やメールアドレス、一応名前だけはいただくということでさせていただいて、次回の案内をするときに、メールアドレスであれば受信可能なものを書いていただき、その都度メールで案内する。その他はメイトムの掲示板とホームページで情報を更新いただいて、案内させていただいている。2回目来られた方は名前だけで、何人来たかを把握するために書いていただいている。

●登録料なども考えては、毎回では抵抗ある方もあるようなので。

●宮若市とは違って宗像はコミュニティがしっかりしている。そこの連携は、こういう風な工夫をしてコミュニティにアプローチして、或いはこれからしていきたいということは、具体的に考えているか。

⇒去年の玄海コミュニティの場合は、実際に視察に来られて、事業をお願いしますということで話を進めていただいた。他は殆ど手がない状態。

●何度かスタッフの不足の話が出ているが、もう少し増やすことは、いっしょにやる人、そういう体制をもう少し整えた方が良いのではないかと思うが、何か考えはあるか。

⇒3回ほどボランティアセンターから2人来られた。その方が呼んでいただけたら話が早くて、すぐに来てもらえるが。見た人にしか分からない活動なので。来られている方の保護者も考えたが、自分の子どもと遊ぶのが精一杯で、自分はその方々を見守るだけだったので、2人のボランティアも見守り、いっしょに遊んであげるだけだったので、実際の人数は要らないということもあるが、沢山になったときは手助けが必要だが、見守りだけの作業なので、人数は必要ないともいえる。それよりも積み木をもっと増やして、50人でも受入れられる位になれば、人も増やす。

●補助金も公のお金を使うので、あまり個人的な取り組みや活動というものに対して出しにくいということもある。この宮若支部の会員は2人か。

⇒3人。

●当日は、そこに持ってきて遊んでくださいという状況だと思うが、これをやることの意味を分かってくれるスタッフみたいな形で、当日の手伝いもだが、これを広げていかなければいけないという同じ思いの人を増やしていくとしたら、宣伝に行ったりとかチラシの作り方とか、当日だけでなく色々なアイデアを出してくれる人を増やしていくということで、事業として広がると思う。

●予算で積み木、カードが計上されているが、このまま承認されたとして、トータルでどれだけの数になるのか。

⇒積み木が約3,000個、カードは消耗品で、木玉がなかなか見つからないが増やしてい

きたい。現在 20 個程度。カゴはカードを入れるもの。保管箱は、1 個 500 個入る。

●遊びだからと謙遜されているようだが、遊びは大人にとっても人間である以上とて大切なもの。もっと自信を持ってアピールしていただいて、子どもが自由に自分の意思を持って遊ぶことが少ないので、がんばっていただきたい。

⇒プレーパークのように、外でもやってみたい。また、お母さん対象のイベントで、横でお子さんを預かるようなこともやっている所もある。そのようなことにも着手したいと考えている。

4. あおぞらくらぶ「あおぞらくらぶ」

団体から、提案内容について説明。

●あおぞらくらぶで会員数が 30 人となっているが、子どもと大人含めた数か。その人数はわかるか。

⇒その時々で違うが、今まで参加されたのが 30 人で、子どもの方が多い。

●その方々が 2,000 円を払って、参加されるということか。その外にも来てない人に声掛けして宣伝して、参加を増やしていくということだと思いが、その中でホームページを活用するということになっているが、その作成に 10 万円かかるが、若い人たちはホームページを見ない、活用しない。中々自分から検索しようとはしないと聞かすが、ホームページの活用の仕方と考えていることがあれば聞かせてほしい。

⇒活動を介绍するのはもちろんだが、チラシ、ポスターにもアドレスを書いて、興味のある方が検索できるようにということと、宗像、子ども、自然体験というキーワードで検索できるように、上位に上がるように設定して、興味のある方の目に留まるようにしている。

●実施スケジュールに色々なことが書かれているが、会場がどこになるか教えてほしい。

⇒田植えは山田地蔵の近くで、釣川、玄海少年自然の家、コミュニティ・センターなど。

●釣川はどの辺りになるのか。

⇒ゆめタウンの近くの、赤間小学校近くの土手。

●18 年に団体が結成され今回の補助申請までに結構時間が開いたが、その間にこのような活動をその都度募集してやられたのか。

⇒内輪でやっているすごく小さな活動だったので、田植えや稲刈り、登山など少しずつ活動をしていて、年間でこのような計画を立てたのは初めてで、参加者の負担で賄ってきたので、今回この補助金の制度を知って、もう少し規模を広げて多くの人に来てもらいたいと考えた。

●田植えや稲刈りはその時に来てできるというものではないと思うが、準備などはどのような方がしてくれるのか。

⇒田んぼの所有者など協力者がいる。そのような方々とスタッフが関わって、年間を通じて協力し合っていく。

●宗像にも山はあるのに、なぜ市外の皿倉山に行くのかという意見があった。

⇒皿倉山がバードウォッチングができるということと、少し険しい山道を登らせたいと考えているので、城山などの良さも分かっているが、条件に合った山ということ。

●参加費が2,000円で参加対象が4歳以上とのことだが、4歳児から大人までが2,000円ということか。

⇒そのとおり。

●支出の中で、講師料の内訳の説明を。

⇒田植え、稲刈りを教えてくださる方が1,000円で2回、科学遊びを教えてくれる方で、1,000円で1回。10,000円×2回は、味噌づくり、醤油づくりを教えてくれる管理栄養士となっている。

●実施体制について、地域や留学生などとも連携をとことだが、もう少し詳しく。

⇒スタッフは教育大の学生と同じ館変えを持った地域の方。教育大の学生とのつながりや留学生、教授に声をかけて行こうと考えている。

●初年度の段階で補助金終了後の展望も持っておられるが、何かイメージがあるか。

⇒補助金終了後は、今まで細々と活動する中で、参加費が一部の人に負担がかかっていたが、補助金で用具などが揃えば、今後一律の参加費で実施できるのではと思っている。食材の持ち寄りなど、人とのつながりを大切にしていきたい。

～ 休 憩 ～

5、東海第五高・宗像高定期戦実行委員会「第2回ザ・マッチ・オブ東海第五高 VS 宗像高」

団体から、提案内容について説明

●昨年は11:00から野球大会、14:00から野球教室とのことだが、お昼を挟んでの実施だが、両校昼食を取るのではなく、対抗戦を見ながら食べながらということなるのか。

⇒本来は10:00から始めるが、昨年は雨が降ったためグラウンコンディションが悪く、この時間の開始になった。昼食は挟む。教室参加者は弁当持参でも構わないし、学食を利用していただいても構わない。

●のぼりについて、大きさはどのくらいか。

⇒1m45×50を予定している。大きいものは、予算的に無理だった。野球のための備品が欲しいが、対象外なので。

●スタート時は、色々な種目もできたらということだったが、その経過はどうか。

⇒両校の校長の話が進んでいるが、結論から申し上げると種目によって公式試合に近いものがある。野球の場合は殆ど公式試合が終わった時期になる。この時期はサッカーやラグビーなど冬のスポーツで、大会直前で組み合わせによって宗高と東海が公式戦にあたるということ。かといって今の時期ではどうかというと、今の時期はインターハイの予選とぶつかる。あるいは試験の考査前にもなる。色々調整が難しく、力量の差もあり過ぎてワンサイドゲームになる可能性もある。我々としては平日に組んでくれないかと、平日だったら公式試合にぶつからない。学校長の判断で、午前中に授業をして、午後の時間帯で1試合2試合、しかしそうすると子ども達とのふれあいの時間がない。やろうという意気込みはそれぞれの顧問も持っている。具体的に話が詰まっているのは野球部のみ。一番可能性があるのはバスケットボール。補助金申請はしなくても、両校

の負担で進めること可能。

- 観戦者が500人とのことだったが、およそOBがどの位などはわかるか。
⇒OB1, 2割と思う。殆どが少年野球の参加者と保護者。
- 野球教室参加者で、少年野球チーム、中学生、一般と分けているが、その内訳は。
⇒正確には分からないが、一般は10人程度。他は殆ど少年野球のチームと中学生。ポスターやビラを各校に置いたので、生徒の弟がいる中学校でそのことを聞いたので参加した、ということもあった。
- 目的の中には市民がスポーツに親しむと、一般の方も参加できて、日頃やっていない方もこれをきっかけに関われるとよいと目的にされていると思うが、これから一般にも広げないといけないと思うが、ここでの野球教室は経験者も一般の方も一緒のことをやられたのか。今後一般の方に広げていく方策は、何か考えているか。昨年と今年の違いなど。
⇒ポスターやビラで一般の方も参加してくださいという声掛けはしていこうと考えている。現場では、一般の方が参加しやすい環境を、レベルに合わせて入っていくようにしているので、やっている子、やっていない子全て一緒ではなく、臨機応変に対応できている。後はどれだけ人を集められるかということなので、広報活動が課題か。
- 試合球については、前回と同じか。
⇒軟式でやっている子も硬式を使うと、効果がある。試合においても、ファウルボールがスタンドやフェンスに当たるとささくれて使えなくなる。1ダースだと実際には足りない。
- むなかた大学のまち協議会では、両高校とも会員になっている。その中でこの取り組みが話題になったり議題になったりしたことはあるか。
⇒特に聞いていない。

6、玄海ニュースポーツを楽しむ会「ニュースポーツを通じた地域交流事業」

団体から、提案内容について説明。

- 収入に寄付等と書いてあるが、もう少し詳しい説明を。
⇒主にメンバーでバザーに出したり、そういったところから出していく。夏祭りにバザーで出して収入を得て、それを運営に回そうということ。大会賞品が、2年間やってきて、大会形式にすると賞品を出すと喜ばれるようなところがあって、無しでは運営は難しい。
- これは賞品代になるのか。
⇒補助対象となるのは3分の2なので、消耗品として買うにしても3分の1は自己資金になるので。理想としては、コミュニティや色々な団体が大会を主催して、そこにアドバイザー的に入っていける道筋ができればありがたいが、そこまではまだできていない。
- ニュースポーツ人口は、ここは玄海地区になるが、そのような動向か。
⇒体験している人は確実に増えていると思う。ただし自分たちでして楽しい経験を持ったという人が増えて行っているかという、そこは疑問が残る。誰かが持って来て、例えば子ども会や福祉会が主催でやったけど、次には自分からという人が増えているかは、どうかと思う。

- そのような人が立場を変えて、主催者になってくれるようなことも考えられるか。
⇒我々が行った会では、次は自分たちでできるようにということもあった。
- 昨年行われた所では、お母さん達が体験をして、そこが今度は自分たちでやろうということになったとき、道具などはどうなるか。
⇒全て市役所から借りている。宗像市のコミュニティは、かなり道具は持っておられるが、在庫の状況は共有されておらず、管理の仕方や他地区まで貸すのかということがまちまちなので、道具を借りに行く大変さを少し減らすと、もっと広がるのではと思う。倉庫から出してくる位の手間で楽しめるものなので。
- 担当課から何かあるか。
⇒当課で貸し出しを行っているが、スポーツ推進委員の中ではどのコミュニティが道具を持っているかということを確認して、スポーツ推進委員が派遣されていく時は、道具があるかは把握するようにはしている。玄海地区のコミュニティについては、道具が揃っていないところもあるので、市に借りに来ている。B&Gにもニュースポーツはあるので、そちらであれば場所的にも近いかと思う。市の方が管理がしっかりしているということで、こちらに借りに来られることが多いのかと思う。市からコミュニティに対して備品の支援はできないが、アドバイス等はできるので。普及が進めば揃えていく必要もあるかもしれない。
- 参加費の30人とは。
⇒池野地区で9月に大会を予定している。その時の参加人数を30人と見込んでいる。
- 大会の時しか参加費は徴収しないのか。
⇒賞品代にあてる。
- ちょっとしたものでも、賞品が欲しいという人はいるだろう。
⇒最初に賞品を出すと賞品目当てで来るのではと悩んだが、賞品がある方が来られた方も喜ばれるし、とても楽しい気分になるようだ。

7、MVC「MVC」

団体から、提案内容について説明

- 大学生が主体となることを一番の目的にしていることは良いと思うが、学生たちが参画して企画して、自分たちは何ができるかを考えるのは時間がかかる。1ヶ月に1回は何かが入っていて、大学生は学業が本業なので、それがこの中で可能なのかと思う。まつりも一つに絞ったり、田植えに関してもその後手をかけるということが学生にできるのかと思うが、どのように考えているか。
⇒確かに矢継ぎ早に事業があり、全てに100%力を入れてということは難しいだろう。初年度は我々がある程度ルールを敷く必要があるかもしれないが、少しポイントを絞って重量をかける所と軽くする所は検討したい。継続事業にしていきたいので、来年度はもっと主体的に考えて、このような所はもっと力をかけて行こうということは、来年度以降しっかり繋げていきたい。
- どこか絞るということだが、どこに一番持って行けば、今の学生に何が足りなくて、ここが一番もう少し、と考えているか。

⇒大学生に足りないというか、大学生は本業で勉強しており、社会人にもなかってこのようなイベント、事業を企画する、それをトレーニングする場を作ってあげたい、ということが本当の想い。我々も企画する段階を、アイデアの出し方会議の進め方を学生に見せるので、これを見て自分たちがトレーニングする機会を作ってほしい。実際に大学生が考えてどこまで実行できるかは実際には難しいと思うが、継続事業なので、今年の間わりは20%だったが来年は40%60%と、後輩も入れて先輩が育てていくと、少しずつ力を付けていくようなことができれば、と思っている。イベントは多いが、アイデアを出させるルールづくりと達成感を提供したいと思っている。その辺は、大学生が忙しくても問題ないのではと思う。

担当課から補足を。事業を始めるにあたって福岡教育大学の学生支援課に協力を依頼したが、学生は忙しいから事業全部に携われないのではないかという話が出た。それはある程度多くの方が登録していて、全部の事業に関わるのではなく、ある学生はこの事業。ある学生はこの事業ということになるのでは、ということは先方も仰っていた。なので、20人が全部をやるということではないということ。

●20人が塊を作っておいて、通しでやるのではないのか。

⇒目標はそうであるが、実際は教育実習等もあるので、試験も当然ある。30人までは増やしたいと思っている。それで分けけて、あなたはこの担当といった、委員会の切り盛りなど、組織を運営する勉強になると思う。

●述べ何人という形になるか。この部分は参加できる、できないということが出てくるのでは。

⇒それは仕方ないと思っているが、実行する担当委員会のようなものがあって、その企画にみんなが乗ってくる、それぞれの団体が、という組織づくりができればと思っている。

●青年会議所の関わりは。

⇒直接の関係はない。自分が青年会議所のOBで、青少年を担当していた。青少年に関しては継続の大切さを感じていた。経験とアイデアが必要だが、単年度だとリセットされてしまう。5年10年のビジョンに立って運営したいという考えを持った。福岡の大学の代表的なボランティア団体にしたい。

●大学生の自主性を育てるところが大変なのだろうと思う。予定が決まっていて学習型でやるということで、それを学生にどう伝えるかということがあろうが、既に募集をかけているということで、チラシなどはあるのか。そこところがどう学生に伝わっているのかが知りたい。

⇒申し訳ないが本日は持参していない。印刷の待機中。

●大学生の自主性を育てることを目的としていることは、どのように謳っているのか。

⇒文章で表すのは難しいと思っているが。

●何月は何をしますよ、というようなことだけでは伝わらないと思う。

⇒表現の難しいところだと思うが、最初は難しく考えずに楽しもうということで間口を広げて、その中でトレーニングするものを徐々に入れていきたい。今は募集中なので、

来年度以降は、満足すれば来年も継続するし、ためになれば後輩にもというように、自然に膨れ上がっていくような形にしたいと考えている。

8、宗像市消費者交流会「明るく楽しく学ぶ消費者講座」

団体から、提案内容について説明。

- 現在会員数が42人ということだが、主に会員が殆どされているということか。
⇒色々な講座をやるときに、最低この人数は確保してくださいという、基礎数のようなものがある。それに会員になっていただいて、プラスアルファを一般のお客さんに来てもらっている。会員は半々よりも多い。介護保険が一般の方が一番多かった。これがPRになって、徐々に増えていくのではないか。
- これからも広がっていけば良いと思うが、今回は事情があって募集は最低限に減らされるということだったか。
⇒ポスターは枚数を削減するが、その代わりタウン誌に一般の方も参加されてください、という募集は行っていく。
- 参加費について、一人どれ位徴収して、何人位かの内訳を。
⇒春の現地研修は35人。受入のキャパシティもあるので。昨年の見学も希望は多かった。料理講習会は、これもキャパシティがあるができるだけということで、28人をお願いしている。
- 実施体制で、役員と会員でスタッフに入ることだが、それぞれの研修や講座とかで、スタッフはここでは何人と、関わる体制が決まっている数字があるところは教えていただきたい。
⇒役員は4人、会員で班長が5人、この人たちが中心になって、後は行事によって集まっていた。
- キャパが決まっているものもあるが、その中にスタッフの人数も含まれているのか。
⇒スタッフは、人数が多ければ会場には行くが見学だけなど、できるだけ参加者優先というようにしている。
- 事業内容で4回実施と書かれているが、税と暮らしを学習するための講演会は、いつ頃実施されるのか。
⇒スケジュールの記載に漏れている。12月2日に行う。

～ 休 憩 ～

9、鐘崎マルシェ企画運営委員会「青空市場「鐘崎マルシェ」で元気づくり」

団体から、提案内容について説明

- 地元のスーパーなど販売を生業としている方たちとの競合というのが生まれるのではないかと意見があるが、どのように整理しようと思っているか。
⇒現在は特段対応は行っていない。ご指摘の件は想定しているので、準備して説明に行こうかとは考えている。
- 商店をこの事業に取り込むということは考えられないか。

⇒考えられるかもしれない。

- 販売者が事前登録となっているが、条件のようなものはあるか。

⇒特にない。

- 地元でなくても良いということか。

⇒他所から来ていただくほど有名になればうれしいが、今はまだお願いして出している状態なので、基本地元からお願いしている。品物が競合しないように、声掛けをしている。

- コミュニティとの協働について、赤間などはコミュニティの支援があるようだが、今のところは何かあるか。

⇒コミセンの場所を使わせていただいているのが一つ。広報で、コミュニティの広報紙に載せていただくのと、配布の時にチラシを入れていただいている。そのような協力をいただいているのと。当日の朝コミュニティ公用車で放送の協力をいただいている。基本コミセンの人力と、あまり迷惑がかからないようなことでお願いしている。

- 自己資金の中で出店料、テントなどの使用料が挙げられているが、どのような内容か。

⇒出店料は500円。4月5月は試行期間ということで、どの位集客があるか全く読めない状態なので無料で、6月からお願いしますということで、500円いただくことになっている。テントは100円から200円いただければと考えている。出店予定者が14、5人いるので、6月に入って打ち合わせの場を持ちたいと考えている。

- 生ものもあるようだが、保健所の届出などの経費はどのようになるのか。

⇒出す場合は、個人負担でお願いしようと考えている。今のところは、許可が必要なものは、元々許可を持っている人が出している、という形になっている。

- 専門の業者が出されているということか。

⇒漬物などは許可がいらないので、そのまま出していただいている。今はないが、鮮魚を出す場合も、例えば行商の許可を持っている方お願いしようと考えている。

- 4月も5月も1時間程度で完売ということだが、この事業のねらいが、物を売る場以上におしゃべりの場でもあるし、ともすれば引き籠りになりがちな年配者を町に誘い出す、ということも狙いなわけで、これにプラスそういった工夫が必要だと思うが。

⇒明日から隣にお茶のみ場を作ろうと思っている。パラソルかテントを置いて、お茶も置いて少し休憩して帰ってくださいと。これは空き地でもしたいと思っているし、もし空き家が借りれるなら、そういった場所を作ろうということを思っている。

- その空き家の候補はあるのか。

⇒ある。

高齢者の買物については、非常に困っている。先々高齢者ばかりになり車にも乗れなくなると、街の方から来ていただく、実際そういうことも起こっているので、我々はその下地を作って、地域の方お年寄りが作ったものを集めて、それを日の里や自由ヶ丘にお声かけいただいているので、こちらから出かけていく。そうするとお互いに交流ができて、将来そのような形になるのではないかと考えている。移動販売は先々必要になってくるだろう。また、今までは作ったものを近所にあげて「ありがとう」だけだったも

のが、100 円や 200 円で売れる。これでもっと作ろうというお年寄りに意欲も出てきているので、それも育てていきたいと思っている。

10、笑顔「介護と福祉の相談や支援」

団体から、提案内容について説明

●予算書で、5,000 円が 2 人 22 回と 4,000 円が 1 人 22 回とあるが、基本的に 3 人体制で臨むということか。

⇒そのとおり。

●実施した事業の内容の中で、活動に協力したいと、これは相談というより申し出だと思うが、ちなみにこの結果はどうだったか。

⇒他にも 2, 3 人いて、相談会のときに人が来るのが少ないときに相談に乗ってくださいとか、受付をしてもらったりした。みんなで話し合いをするときには、専門職ではない普通の市民という立場でどうしたらよいだろうかと、会議にも参加してもらっている。ただ、相談の来られた方が難しい相談で個人情報が多かったもので、遠慮してほしいということと言われて、そういう時には申し訳ないということで、遠慮してもらった。

●資格を持った方か。

⇒ヘルパーの資格を持っているが。

●昨年度のケースの中で、これは良かったという事例があれば紹介を。

⇒80 歳過ぎの方で老老介護という感じで、介護保険の申請書は持っているが、奥様が介護保険を利用したくない、人が家に入って来るのが嫌ということで、体は不自由だが頭ははっきりしていて、一切の負担がご主人に行っている。ご主人が料理の仕方を教えてくださいとか色々アドバイスを求めてこられ、どのように対応したらよいかと来られたので、子どもさんは遠くにいらっしゃるので全く音沙汰なしで、自分が倒れたら妻の介護保険を利用するなどその時に考えると思うが、気軽にこのようにして相談に来られる安心感がありがたいと言われた。

●事業の成果で、視察に行って協力を得られるようになったということだが、差し障りなければどのようにして協力を得られるようになったか。それ以外に視察に行かれた成果があれば教えていただきたい。

⇒障害者の就労をしている福祉施設で、最初は 4, 5 人でやっていたのに、段々大きくなって、周りから NPO になってほしいと言われて、就労施設からグループホームもしてほしいなど県からお願いされるなど、障害者と障害者の母の会、ボランティアの拠点として心理士、福祉士、精神の障害者を扱っているので、ボランティアに支えられながらここまで大きくなったということが、私たちにとって大変勉強になって、このまま 2 年くらいで立ち消えなくて、みなさんのためにできれば NPO でもボランティアセンターの形でもいいので、大きくなっていくためにどうしたら良いかということ、とても励みになって、私たちだけではこれから大きくなっていくのに、今赤間西など他のコミセンでも働きかけをしているが、とても簡単に広報活動ができないなど大きな壁にぶつかっている。そういうところの仲間と話をすると、励みになる。

●運営していく中で、このチラシはどの辺まで配布しているのか。

⇒スタッフが作ったもので、メイトムとユリックスと赤間コミセン、そして去年の暮れには他のコミセンにも置かせてくださいということで置かせていただいたが、期限が切れたので4月以降も置かせていただきたいと思っている。

●今コミセンには置いてあるのか。

⇒2, 3か所。4月から金額が大きくなったというのが、赤間西でも同じように相談業務をしていきたいと思っている。何とかこの後2年間で、笑顔の存在を、気軽な相談が無料で受けられるというのを広めていきたいと思う。担当課からは、いつもタウンプレスに載せていただいて、文書の書き方も教えていただいたり、介護保険のパンフレットの最新版をいただいたり、協力していただいている。

1 1、宗像音楽倶楽部ふれあい「高齢者身障者の音楽活動支援 共に音楽を楽しもう」

団体から、提案内容について説明。

●講師は会員以外の方が来られているのか。また、病院はあるようだが、老人ホームなどからの要望など、そういう広報活動は如何か。

⇒講師については、現在は会員の中でお願ひしている。今年はもう1人、ヤマハで講師をしている人にお願ひして、参加型の方を充実させていきたいということで、2人挙げている。老人ホームなどは、依頼は昨年はお出でなかった。チラシなどは貼っていただいている。

●自己資金の会費等で、月額300円はここに入るのか。

⇒参加費が1回200円と、会員からの会費500円。資料は300円になっているが今は500円。

●会費以外の自己資金は、どのように支出されているのか。

⇒足りない分は、会員に報告をして補い合っている。

●今回で最後になるが、講師にはお金がかかっていると思うが、来年以降も講師を招いて練習していくのが力も上がっていくと思うし、そこはどのように考えているか。

⇒今は月5,000円の講師料でお願ひしていて、会員の会費を、人数が増えて5,000円になれば。

●今の会費では補えないのではないか。

⇒今の会費は500円だが月1,000円ということで、発表会があると練習が間に合わなくなったりするので、原則新しい方は500円で、発表会に参加する方は1,000円ということにしたい。

●ボランティアとして参加いただいている方の負担を増やすことになるか。

⇒参加費もいただいている。

●補助金がなくなれば、やっているみなさんでお金を出し合って、参加費もいただいてという形か。

⇒それでお願ひしていくしかない。

●PR活動で演奏に参加されているが、出演させてほしいということで依頼したものか。

⇒声をかけていただいて。最初の酒蔵でのコンサートを見ていただいて、それから支援していただける方が、同じような活動をしている方で共演させていただいたりなど、回

数は多くなった。認知症の啓発という部分で、北九州での認知症の講演会での演奏の依頼も受けた。勉強させていただいて、認知症に役立つということであれば、今後宗像でも行いたい。これだけでなく、実際に障害をお持ちの方や認知の方も演奏されるので、それを聞いていただいて、市民の方にも啓発できたらと思って活動している。

12、Eg ブランダー「宗像市福祉事業所従事者ネットワーク」

団体から、提案内容について説明。

●バーベキューについて、参加した人たちが食べる分の食材費で、それを補助対象経費として計上されているということか。これをきっかけに交流が図られるということか。

⇒お見込みのとおり。

●宗像市内の全事業所は、いくつあるのか。

⇒障害と介護、ホームヘルパーの事業所とか訪問看護とか、分類によって事業所数が変わってくるので、我々が所属している障害福祉事業とすると、30くらい。

●そのネットワーク化を図りたいのか。

⇒そう目論んでいるが、1年目なのですごく協力いただくまではいっていない。徐々に広がっていったらと。

●定期学習会というのは、自分たちで学習をされて、ここには基本的には講師料は発生しないということか。

⇒今回は、外部の人で1人だけ発生しそう。イベントも研修会の方に予算を置いておきたいので、あとも1人位しか講師謝礼残っていないくらいでやっていこうかと思っている。キャリアコンサルなど呼んで勉強したいが、予算との折り合いで自分たちで勉強しようかと、別途運営委員会の下にある定期学習会のチームがあるので、そこをお願いして、内容はお任せしようと思っている。

●委託費のチラシ作成代が半分以上占めているが、1,000枚でというところで、どこにどのような形で配られるのか。

⇒前回のイベント1,2は同じ数用意させていただいた。配布先は福祉事業所。各事業所のスタッフまでいきたいので、そこで働いているスタッフの数。できれば今回は、特別支援学級や特別支援学校にも配りたいと考えている。メイトムに置かせてもらったり福祉課に置かせてもらったり。お母さんともつながっていきたいので、特別支援学級や学校に行っている子どもさんの連絡帳などにも入れていただけるよう、前回は入れていただいたが、そういう形でご協力いただく。

●事業所のスタッフだと結構な数になる。効果的にはどうだったのか。このチラシを見て来ました、など。

⇒チラシを見て来た方もいた。チラシを配る効果は、Eg ブランダーというのが福祉業界で殆ど知られていないと思う。こういうことをしようと思う人が元々いないから。宗像でこういう活動をしていると知ってもらっただけでも、福祉業界の中で勉強会をやっているということが浸透していけば、チラシの効果はあると思っている。

●担当課からは。

⇒事業所のスタッフ研修はそれぞれの事業所がやっていると思うが、ここの特色は各事

業所を跨いだ、運営スタッフも一つの事業所が中心になるのではなく、各事業所の思いがある方が集まって、そこだけではなく市内の障害福祉のスタッフが元気になる、スタッフが元気になることによって当事者の支援がスムーズにいくようにというところから始められている。事業所を越えたところで、本業を終わった後でやられているというところで、行政の手が届かないところなので期待できていると思っている。

～ 休 憩 ～

お、社会福祉法人さつき会「宗像大島産の甘夏を使った加工品づくり」

団体から、提案内容について説明

- 講師料が1日30,000円で6回とあるが、どういった方を予定しているか。
⇒食品加工のプロの方で、九州に限らず色々な所で農協、漁協特産品の開発をされている方。その人の強みが、色々な農協漁協が扱っている製品の商品にならないもの、例えばタイやイカやフグはすぐ取引されるが、雑魚のような名前がつかない魚を加工してハンバーグを作ったり、それを食べさせる飲食店をプロデュースしたり。農産品に関しても、劣化したミカンをどう活かすかなど、そういう面に特化した専門性の高い人を迎えている。
- 講師の旅費は。
⇒報償費の中に含まれている。
- 設備費が70,000円になっていて、摘要が試作時消耗品代とあるが、もう少し具体的に。
⇒甘夏の加工をする際に、そこで使うビンや器など。
- 消耗品ということは、再利用できないということか。
⇒再利用するが、他にも道具などもある。
- 加工する際の場所を借りるお金も入っているのか。
⇒場所代ではない。全部物品代。
- 広報活動は、今後どのように行う予定か。
⇒広報はラジオ放送や新聞報道でなされているが、知ってもらったら買ってもらわないといけない。そこが難しい。6月から営業スタッフを1人入れて、宣伝してまわって環境がある所に営業に行けなかった所もあるので、それをする人員として採用している。

か、公益社団法人宗像青年会議所「市民参加型ミュージカル 大島物語」

団体から、提案内容について説明。

- 宿泊料が30人で2日というのは、実施スケジュールにある8月7日から9日までの分か。ここでは、実際にステージ発表は2回か、リハーサルが1回と本番1回か。
⇒本番は1回だが、実際に設置してリハーサル、練習ということになるので、2日間としている。地元の方々との交流も組んでいるので、2泊3日にしている。
- 演技指導の1回に何人来て1回ごとの謝金、台本製本をどこにどの位で頼んでいるか、もう少し詳しく教えてほしい。
⇒演技指導は期間を決めて、この期間と本番までの指導ということで、まとめて組んで

いる。週2, 3回。講師は2人。延べになると100回近くになる。ボランティアのような形で協力いただいている。台本製本は殆ど紙代。印刷に関してはメイトムや青年会議所の印刷機を使用する予定。

- 中身に関しては、昨年と変わらないのか。
⇒昨年とは全く変える。脚本は打合せ中。
- 本番の発表会は、8日か9日か。
⇒8日の予定。金曜日で時間は大島小中学校と打ち合わせる。
- 昨年出演者の中で、大島の中学生を含む小中学生から社会人となっているが、その構成の内訳は。
⇒大島は昨年は1人。小学生が15人、中高で15人、社会人が若干。
- 応募が30人を超えたら切るのか。
⇒多くても受け入れたい。

我々の想いは、大島の学校の文化祭でも劇をされているので、昨年も先生とやりとりしながら、何とか1年に1回、大島でやるミュージカルにお互い参加して良い関係をつくりたいが、大島の子が本土まで練習に来なければならない。去年はフェリー乗り場まで先生が毎回送迎して、それが中々難しい。今年もそれをやるつもりだが、どうしても島外の練習スケジュールとしては、同じスケジュールはできないので、できれば島の中は島の中で練習してもらって、こっちでもやって合同練習という形で、将来的には3年計画位でやりたいねという話をしていた。残念ながらその先生が異動したので、校長先生教頭先生とは是非やりましょうと、大島の中でもスポーツ以外の受け皿になるのであれば、子ども達にも良いことだということで、昨年も募集をかけて先生からも担任からも呼びかけてもらったが、中身がどんなものか分からないので、1人でも参加してもらったので、良かったと思っている。今年はまだ少し早い時点で、昨年のあのような形で参加しませんかということが出来る想いの中、進めていこうかと思う。ミュージカルに出ない子でも、行った3日間の中で交流ができるような内容を、担当課と打ち合わせを行っている。

～ 休 憩 ～

き、地島キャンパスの会「みんなの参加型・元気な地島づくり事業」

団体から、提案内容について説明。

- 旅費について、駐車料金などは入っていないが。
⇒学生は、殆どバスなどを利用するので、駐車料は計上していない。バス料金は出していない。渡船代だけ。
- 自己負担金は、どのような形で捻出される予定か。
⇒子ども会や、会費を集めたりする。
- 去年は天候の関係で実施できなかった事業もあったが、このような活動をするということで、子ども達が変わったとか、元気になったとかいうようなことは。子どもの様子を少

し伝えてほしい。

⇒去年流れた時に、大学の先生から基本の絵を描いていたので、その絵を作り上げたりしたが、一人一人が画用紙に書いた絵をそれにつなぎ合わせていったが、そういう面は普通美術の先生も関わらないので、先生や学生さんの声掛けがあったら、子ども達も絵が違おうし、何時間でも集中してずっと描く。違った雰囲気や島の中に入って、その環境ができるのは子ども達にすごく良いことだと思う。いつもなら学校の先生が、範囲が決まっている。島外だと色々な活動や経験ができる。島の中での活動になってしまうので、そういう経験が子ども達に新しい経験になっている。

●実施スケジュールについて、天候にもよると思うが、もう少し具体的に教えてほしい。10月から11月に開催すると書いてあるが。

⇒この時期に漁村留学とか、島の女性部とかの活動が入ってくるので、今現在日程を決められない。この期間で、今週時化たら次の週などのように、お父さんお母さんの都合で調整する。7月か9月位にはっきりすると思う。

島の状況を申し上げると、会議の日程は本土側は何月何日となるが、島の場合は時化した日になる。

●交流会は一緒に食事、食材を調理してというのは1回かその都度活動されるのか。

⇒講師の先生が来られて5回位指導受けて作業される、その都度行う。

●原材料費は、島の料理や材料を使ってキャンパスの会が作られる材料費になるのか。

⇒そのとおり。

●その時の参加者は、キャンパスの会の大人12人子ども15人と、学生など。

⇒それと島外からの参加者もある。食事を一緒にするのは1回か2回だが、講師料には打合せの回数も含んでいる。

●絵は、両方の港で行うのか。

⇒泊の方は殆ど描いてしまっているので、今回は白浜になる。

●担当課からは。

⇒昨年絵を描いて企画していたができなかったので、3月8日の椿まつりのポスターに、子ども達が一人ひとり描いた椿の絵を散りばめてポスターを作った。来場者にも評判が良かった。

く、元気な島づくり協議会「地島漁師食堂事業」

団体から、提案内容について説明。

●会場借り上げ料は、まとめた金額か。

⇒この期間6回開くので、それをまとめた金額になる。

●来場者は、宗像市内が多いのか。

⇒昨年実績で一番遠かったのは久留米から。北九州市などもあり、宗像市内ばかりではなかった。

●何をご覧になって来られているのか。

⇒宗像市内は回覧版、それ以外は駅や各施設へのポスターチラシ等でPRさせてもらっている。

- 20食が限界か。それ以上来られたらどうするか。
⇒昨年の実績で、20食限定とさせていただいたが28食は出している。あまり増えすぎると対応できないが、この程度が良いところではないか。場所の広さも含めて。
昨年はウォーキングや釣りなど他の事業と併せてやったので、来店される時間がずれて会場が混雑せずに流すことができた。
- 20人位だったら、普通にゆっくり食べられるのか。
⇒20人一斉だと厳しい。10人ずつ時間差で来てもらえば。島に来るには船の時間は一緒なので。
- 来られた方は、食事だけでなく他のイベントや活動もされるのか。
⇒そういうものが元々なくて、昨年以前までは食事のみ。なるべく長く島に滞在してもらおうということで、ウォーキングと釣りを併せたのが昨年から。
- 釣り体験は、島の方が教えられるのか。
⇒そのとおり。子どもさんも来られた。食事だけだと食事が目当てになる。釣りをセットにすることで、釣りのことから話が始まって、よくよく話を聞くと、漁師食堂の釣りがしたいと、そのような効果もあった。
- 広報について、むなかたタウンプレス以外にもっと広げることは考えていないか。
⇒現在のチラシプラス季節ごとのチラシを作っているが、このようなチラシを作る度に新聞社にこのようなイベントがあるということを発表している。新聞に載ると広範囲に知られる。
- ネットは利用していないか。
⇒正直今のところ弱いので、今年度改めて、今の地島でいくと個人でホームページを開いている。
連絡先が個人になっているので、可能な限り対応している。その際に、島内に食堂はないのかと聞かれることが多いので、食堂を開くきっかけになった。開店までの経過は大変だった。
- 泊と白浜は、別にされるのか。
⇒交替です。
- 自己負担が大きいのが、どのよう賄われるのか。
⇒漁協女性部の予算から。
- この事業で利益を得ようという考えは今後もないのか。
⇒元々の目的が営利ではないので。島に来ていただくこと。当時は食事を提供する所が全くなかったのが、まず島に来ていただくきっかけをとというのがスタート。
- 補助金がなくなった後はどのように継続するか。
⇒始められた経緯を紐解くと、まずは地島に食堂が欲しいと。美味しい地島の魚を地島で味わっていただきたいというところからのスタートのようなので、そういう意味では民間の食堂が昨年オープンしたことで、ある意味目的の一つは達成できたのではないかと。また、女性部がまとまって何かに取り組もうというキッカケには間違いなくなくなっている。
これを行うことで、食堂ではないにしても、地島のためにみんなで何かをしなければい

けないという気持ちだが、それに気づいてもらったら、少しはみんな動いてもらっているようなので、きっかけにもなるし、やらせてもらったので経験にもなった。

～ 休 憩 ～

1 3、国立学校法人福岡教育大学「講座 むなかた!ムナカタ!宗像!V」

団体から、提案内容について説明。

●事務局に何うが、打合せの費用は大学の報償費の中で計上してあるが、これは経費としては認められないのか。

⇒打ち合わせに関するものについては、認めないということで統一している。元々曖昧だったこともあるので、今回からこのように取り扱うこととした。

●受講料の徴収について、事業報告のアンケートの中で様々な意見があったとされているが、受益者負担の方向で審査の際にアドバイスすることもあるが、徴収について実際にどのような意見があったのか。

⇒高すぎるという場合もあった。3日で9時間、2,000円としたが、国立大学ということがネックかもしれないが、無料が良いという意見もあり、今のままで良いというものもあった。何より満足されたか、それに合っていたかということではないかと思う。

●シンポジストについて、未定とのことだが宗像市関係の方も、宗像市で推進されている方を入れる可能性もあるのか。

⇒宗像大社に関する研究をされている方もいらっしゃるかもしれないし、世界遺産推進の関係で研究されている方等も考えている。

●市民啓発を目的としているが、受講者の数で、宗像市の方の数は分かるか。

⇒はっきりした数字は分からないが、3、4割くらいは宗像市。福津の方もいらっしゃる。北九州や福岡、久留米、飯塚も多い。逆に浸透してきたというのものもあるかもしれない。この前後にテレビで放送されていた。直前の申込も多くいただいた。

●250人の定員で、お断りした方もいるのか。

⇒いらっしやった。期限を区切っていたが、その3日ほど前に定員に達して、それ以降はキャンセル待ちとさせていただいた。

●シンポジウムについても、250人でお断りすることになるのか。

⇒学内での開催で、会場の定員があるので。

●支出でテープ起こしがあるが、最後の年でまとめ集などを出す予定か。

⇒作ろうかと思っているが、外に出せるかどうか分からない。製本するにしても、学内のコピー機等で対応することになる。

【202会議室分】

1 4、里山歩きの会SUN愛MUNAKATA「里山を護る活動を市民に広げる」

団体から、提案内容について説明。

●環境講座が去年は計画されていて出来なかったということだが、精算は済んでいるのか。

⇒予算は使わなかったもので、その分は返金が済んでいる。

●参加人員について、会員が 267 人で一般が 4 人、子どもは会員の子どもか、一般の方の子どもか。冊子やホームページ、チラシ等を作られている割に、一般の参加が少ないのではないかと思う。

⇒子どもは会員、一般双方含まれている。

一般の方への門戸を閉ざしているわけではなく、チラシで告知したりホームページで募集したりしている。何人か問い合わせがあり、参加されている。しかし、仲間が一緒に来ないと一人では参加しにくいのかと、そのようなことから少ない状況である。

●市広報には出しているのか。

⇒市広報には出していない。我々で何人かの指導員がいるが、増えすぎると掌握しにくくなる。山であるので事故もある。今どのような方式で登っているかという、20 人から 30 人位を、6, 7 人の班に分けている。班長を決めて、点呼のときも班長が掌握して人員を点呼して進んでいる。前後の時間差も人数が多くなると出てくるので、せいぜい 30 人位までかなど。幸いにして今まではその範囲で納まっているが、盛大に募集して沢山集まり過ぎると、掌握できないかなどということで、多少消極的な活動になっている。

●先ほどの説明では、会員が 40 人、実際の参加は 20 人程度で一般の方が 4 人程度。ほとんど会員のための親睦になっていないか。

⇒一般参加についても、市内の方だったらできるだけ沢山参加いただくのが本来の趣旨であろう。その努力はホームページ等で行っている。基本的には市内の方から参加いただくのが良いが、福津市にもチラシを置いている。そのような取り組みの結果、一般参加者が少ない状況なので。確かに一回山に登る際に 50 人 60 人というのは難しいので、多くなった時には、回数を分けるとか、そういった努力を今後やっていかなければならないと思う。

●予算の件で、参加費、自己資金で会費とあるが、年会費との整合性は。

⇒自己資金で補てんということ。

●会費を全部入れるのではないのか。他の業務にはこれだけ、登山に係るものはこれだけ入れているということになるのか。

⇒会費収入が多くなると経費を増やさなければならない。経費をできるだけ抑えているので、それに合わせた収入にしている。

●42 人の会員なので 42,000 円集まるのか。

⇒家族会員や子どもは無料等もあり、42,000 円にはならない。

●全部を計上していないということはなぜか。

⇒別の活動に充てている。この申請に係るもののほかにも、県外での活動もある。

●活動は全て計上した方が分かりやすいのではないか。

(個別審査後事務局から説明。自己資金については申請した事業のみに係るものを計上することとし、その他団体自体の維持等、当該申請に関係のない経費については予算書に記載する必要がない。)

●2 年間かけて作成されたこの資料は、よくできていると思う。子ども達に山を知っても

raitai、里山保全に関心をもってもらいたいということはあると思うが、活動の内容やスケジュールを見ると、特に子ども達の参加があるようにはなっていない。1年目は青少年活動団体に声をかけるようになっていたが、子ども達の参加を増やすような、子ども達に関心を持ってもらうようなことは考えているか。

⇒子ども達への声掛けは、家族を連れてくるくらいしかやっていない。今年度の活動としては、できるだけコミュニティを通じて子ども達にも声をかけられるような形で考えていきたい。

15、宗像カノコユリ研究会「市の花カノコユリの普及推進事業」

団体から、申請内容について説明。

●宗像の固有種ということだが、甕島のものとは違うのか。

⇒宗像独自のものになる。甕島の球根が、ユリックスが出来た時に市が買ってばらまいている。住宅地にあるのはほとんどがそれ。固有種は裏山とかにしか残っていない。20数ヶ所調べたが、ほとんどが甕島のもの。

●固有種とそうでないものは見分けられるのか。

⇒カノコユリは赤カノコがほとんど。赤ばかりの所は甕島のもの。宗像は赤と白の中間。赤白いろいろ混ざっているところは、固有種の可能性が高い。ただし、近くに甕島のもが入ってきているので、交雑しているかもしれない。研究会では、固有種を中心に増殖をして、市内に広げていきたい。そのための人材を育成する。

●固有種ではないものがここ何年も植えられている。その交雑もあるのか。

⇒当然あるだろう。別に、固有種でなければ増やしてはいけないということではなく、花は増えれば良いと思う。ただ、市のイメージとして、宗像の固有種を中心にしていこうという方が、賛同も得やすいし、そのような視点の方が良いかということで中心にしている。

●コミュニティでも増やしてきた。あれは固有種ではないということか。

⇒球根であれば固有種ではない。プランターでの育成は難しい。水と緑の会で世話をしていたが、組織が大きくなりすぎて小回りがきかない。協働大学の10人で研究会を作った。人材育成にはよい機会だったと思う。

●私のコミュニティの部会でも球根をもらってやっていた。種を植えたり苗をもらったりと色々なことをやった。イベントでみなさんにも配ったりしたが、これからはあまり好ましいことではないのか。

⇒場所を選べば、人の手を加えなくても育っていく。自生地 of 草刈りをするときに切らなければ生き残るが。意識づけが必要。ある程度知識を持った人が地域にいて貴を付けてもらわないと。プランターでは管理ができないので地面に植えてほしいという形で、条件に合う所があれば良いが。それはそれで一つの効果はあったと思うので、次の視点でやっていこうかとうことで立ち上げた。

●メンバーの方は知識もあり熱意もお持ちとのことなので、計画どおりに進めば良いと思う。高温処理は自宅でもできるものなのか。

⇒サーモスタットさえあればできる。専門の機械は高価だが、工夫次第で自分でもでき

た。

16、福岡やま繭の会「クワコを通して次世代に自然の大切さを伝える」

団体から、申請内容について説明。

●九州大学に見学に行くとのことだが、子ども達も参加の予定だが、どのように集められるのか。

⇒クワコ展の時に募集する。一般にも、広報などでお知らせする。1回が10組20人程度が限度で、それを何回に分けるかを考えている。

●講師料が3回となっているが、同じ講演会なのか。

⇒1日だけ。その前に本を作る。それに専門的なものが入るので、先生に執筆していただいたり、私たちが書いたものを確認していただいたり、そのために計上している。

●冊子を作る時と夏の課外授業と、もう1回は。

⇒観察会に行った時に、人に来てもらって現場を任せるために。私たちに関わられますから。

●委託料でパワーポイント委託料が計上されているが、操作をする日は。

⇒2日間。講演会が始まってすぐ先生が使われるので。人が集まった時点で行うので、2日間で4回程度になる。

●カイクを群馬県から取り寄せるということで、富岡製糸場が世界遺産に登録されたので、子ども達が集まる夏の課外授業などのポスターでも触れると良いかもしれない。

⇒今までも群馬県にはお世話になっている。カイクを大切にす文化が残っている。

17、がんばれ宗像！！「親子で遊んで学べる防犯教室&清掃活動」

団体から、提案内容について説明。

●防犯と清掃と知的障害ということで、対象が全く別になるのか。

⇒一緒になることもある。例えば、障害を持たれた方々が、清掃活動に参加することで、一緒に活動することで発達障害の方々のコミュニケーションにつながれば、というところがあるので、連携する活動もある。

●連携もするけど一般的には別ということか。

⇒基本的にはそれぞれ活動しているが、連携した活動もある。清掃活動にお子様方が休みの時に参加いただく場合、地域のゴミがこれだけ落ちている、川のあたりでゴミがここに流れてきている、この辺が危ないなど防犯にも繋がるお話しをしながら清掃活動を行う。基本的にそれぞれ活動をしながら、必要に応じて繋がっている。

●コミュニティ・センターとの関わり、位置づけはどのように。

⇒防犯教室の際にコミセンを利用させていただいている。コミセンの方々と連携して防犯セミナーを開催することもある。清掃活動でも、コミュニティの清掃活動と一緒に動くこともある。比較的連携はできていると思う。

●コミュニティの部会で色々な活動をしているが、それにプラスアルファでがんばっておられると理解してよいだろうか。

⇒コミセンのみなさんが活動するときに、お手伝いできる部分も多いと思う。

●自己資金は、どのような内容か。

⇒イベントの際の売り上げなどをストックさせていただいている。申し訳ないが、詳細は解りかねる。

●発達障害や学習障害の支援で一刻館で活動しているとのことだが、1回あたりの参加人数と年間総数の実績は、それと今年度の見込みは。また、パンフレット代が高額だが、どのような配布方法を考えているか。

⇒発達障害の方の支援については、基本的にマンツーマンでさせていただくので、1回の利用は1組となる。本人と保護者のペアが多い。本人に製作をやっている間に、保護者からの相談を受けることが多い。その方が何回か続く場合もあるし、将来のことが決定して、次の方がこられるということで、結構ていねいな形で、あまり多くということにはならない。年間で5組くらいだった。今年も同じようなことになると思う。パンフレットは、セミナーやイベントで配布が多い。個別のポスティングよりも、イベント等で一気にということが多い。一刻館も複数の団体でシェアしているので、その利用者にも配るなど、人の流れがある場所を考えている。

●ホームページをお持ちだが、アクセス数はどの程度か。

⇒アクセス数は解りかねる。フェイスブックの「いいね」の数であれば、500程度。

～ 休 憩 ～

19、あいさつ運動「あいさつ運動」

団体から、申請内容について説明。

●あいさつ運動ということで、みなさんあいさつしましょうというのか、それに伴ってアクションを起こして、のぼりを立てて訴えていくという活動もあるのか。どういう形で挨拶を推進するのか。

⇒トラメガを持って、とにかく人を見たら声をかけて、今あいさつ運動をしていますと、声掛け合って元気な町をつくろうと、4～5人で週二回まわろうと考えている。普通の防犯パトロールや青パトと違うのは、人を見たら声をかける。選んだ時間帯は、買い物に行っている人が結構いるのではないかと。空き巣がメインになっているので、その時間帯にまわって、人がいる家にもメガホンであいさつして、元気な町にしましょうと言いながらまわっていかうと思っている。

●時間帯について、家庭が留守になるということで14時から16時までとなっているが、学校が15時半から16時半位が下校時間になる。そのあたりに合わせてやっていくと学童の安全、学童へのPRになるので、少しずらしていただけないかと思う。

⇒みんなで協議したい。その方が望ましいかもしれない。

●地域でもパトロール活動をされている。あいさつではないけれども。そのようなところでもこの運動はされるのか。別と考えておられるのか。

⇒別になる。コンタクトをとることはあろうかと思うが、地域がするとき都合が良い人は参加するし、地域からもこちらに参加いただいたりと、連携ができるとよいだろう。声をかけないのがもったいないと思う。ユニフォームだけでも効果あると思う。

●今後の展開について、拡大の予定だが目処は如何か。今年度は須恵だけとしているが、場合によってはもう一地域程度、年度内に体制が整えば可能か否かを伺いたい。

⇒須恵が2人、あと城西ヶ丘、吉武、樟陽台から参加の予定。その方々が各地区の会長になっていただき、チラシをその地区に配っていかうか。自宅にいる高齢者に声をかけて集まってはどうかと思っている。集まりすぎると制服が間に合わないので、ゆっくりと増やしていきたい。

●私の地域でも子どもの見守り活動を行っている。制服等は自治会で準備している。コミセンにも準備しているものがある。コミセンや自治会の支援について相談してはどうか。

⇒募集して、想定以上の応募があったらどうしようかと思っていた。そのような場合はコミセン相談に行きたい。

●交流会のお茶代が計上されているが、これは年に1回ということか。

⇒最低年1回は開きたいと考えている。総会的な交流会になる。3か月に1回は集まった方がよいとは思いますが、経験がないので。みんなで顔を合わせてやっていった方がよいと思う。

●今は、代表は既に実行されているのか。

⇒朝の見守りで、立っているだけ。今回の計画は、今から。

2 2、金海・むなかた親善の会「宗像市・金海市市民交流（草の根）事業」

団体から、提案内容について説明。

●去年は金海に行かれたのか。

⇒下見として、私たちスタッフ2人が行った。

●担当課に伺いたいが、韓国との関係性が流動的になっている。市としてのサポートは、どのように考えているか。

⇒姉妹都市締結以降20年以上経っている。今までは行政主導で親善大使の会等で交流をしてきたが、民間レベルに戻した交流をということで、子ども達を海外に連れて行き、体験させるということが大きな目的。行政としても安全面などで協力していく予定だが、たとえば少年野球チームがこの補助金で行ったりしている。その交流がずっと続いている。お互いの国を行き来することで信頼関係もあるし、今回の体験館に泊まるという集団行動で、安全面を配慮して、そのような場所を設定したということ。

●子ども達は感想文を書くということだが、報告会があるので、その時に是非いただきたい。宗像市から空港へ向かう場合にマイクロバスとなっているが、参加者数を考慮してマイクロバスの必要があるのか。

⇒荷物もあり、時間厳守の必要もある。子どもなので忘れ物の心配もあるので、一度市役所等に集合して、と考えた。市のバスも使えない。

市のバスは職員が同乗しなければならない。今回の活動は民・民にしたいという想いもあり民間のバスということと、市のバスの運行時間からも外れる。

●報償費で講師謝金が計上されているが、子どもの交流ではないのか。

⇒民族舞踊や、体験館でお互いに集まった子ども達の中で見て、お互いに意見を出し合っていて見せるための文化院を借りるための予算になっている。施設の借用料と、そこで

色々としていただくための、踊りや民俗芸能を見せるにあたっての場所と、その方々への謝礼が必要だった。金額の提示はなかったが、必要と思った。

- 一人ではなく、総額でということか。

⇒場所と謝礼含めて。謝礼とは言われていないが。

- 民・民ということだが、補助金終了後はどのような考えを持っているか。

⇒一段階上にのぼった補助制度があると聞いている。そのような段階に上げていきたいが、そうならなかった場合は、個人からの一部負担金で考える。公費では負担できない予算は自費で賄うようにしているので、今後そのような形で継続していきたい。

- 来年までは3万円の参加費で、それ以降は増やしてもやっていきたいということか。

⇒参加者の今後の意向を見て、少し上げていくのもよいと思うが、市の支援のもとに、個人に負担を求めない方が長く続くのではと思う。

- 応募状況は。

⇒11人集まっている。当初の予定は10人から15人程度。金海の方でも、それに見合った数の子ども達を集めてもらっている。

20、すこやかライフサポーター「ストレッチ&アロマ・ハーブ活用健康講座」

団体から、提案内容について説明

- スケジュールで確認したいが、セルフケア講座は年6回程度で27年度からとなっているが、今年度は講座は実施しないのか。

⇒今年度は予定していない。

- 担当課に伺いたいですが、アロマトリートメントについて、按摩とか針とかやっている中で、行政がやるのは如何かと考えるが。

⇒針灸など保険適用のものとは違う形で実施されると認識している。目的としては、施術をするというより、子育て中のお母さんたちの気持ちを潤すために、悩んだ人たちをこういう方法を用いてケアして行こうということが事業の趣旨ということで、トリートメントが主体というよりは、その技術をとおしてお母さん達の子育て支援の一環、メンタルヘルスケアの一環という形事業展開と受け止めているので、針や整骨とは違うという風に認識している。

- 事業の目的に「北九州と福岡の間で、子育て世代の転入が増えている」との記述があるが、数値は掴んでいるか。宗像市は総合計画の中でも如何にして宗像ブランドを立ち上げるかということで頑張っているが、子育て世代に住んでいただきたい宗像ということを目指して、色んな施策に取り組もうとしている。ここでの増えているという表現が妥当なのか、疑問がある。人口も横ばいか微減、ある年齢層では逆転もあるだろうが。

⇒市のホームページで人口動態を調べた。人口は緩やかに増えている。子育て世代の転入が増えているというのは、憶測の域を越えないかしのれない。

- パンフレットでは施術料が1,000円となっている。予算書では参加費500円となっているが、その整合性は。

⇒最初は材料費のみ500円の計画だったが、補助金がなくなって以降の事業展開を考えると、材料費のみでは賄えないタオル類の補充や、新たに消耗品として発生するもの

もあるので、1,000 円に上げさせていただいている。一般のサロンと比べても、1,000 円でも 3 分の 1 程度の低価格となっている。スタッフへの交通費の支給等の必要もあり、支出も増える。決算時に、収入が増えた分補助金の返還で対応を考えていた。

●予算書の差換えが必要ではないか。

⇒自己資金と調整で、収入額は変わらない。

●参加費が 1,000 円×40 人で 40,000 円。20,000 円増えた分が自己資金 20,000 円減ということによいか。

●委託料に情報紙への広告掲載が計上されているが、どのような媒体を考えているか。

⇒子育て中のお母さん達が手に取るような情報紙で、安価なものを考えている。

2 1、シャイニングハートむなかた「がん検診の普及啓発、受診率向上」

団体から、提案内容について説明。

●検診率は 20 数%で、30%行っていないのか。

⇒現状はそのとおり。皆さんにもっと受けていただきたいが。発症が多い年齢の方の受診率が低い。高齢者も少ない。チラシを配布した時に、関心がないと言われた。

●市としても推進していると思うが、どのような点がネックになっていると思うか。

⇒受診率の向上は目指しているので、色々な場面で受診を案内するが、なったらなったでいいなどと言われる方も多し。症状が出てから病院に行っても治療に時間もお金もかかるし、精神的な負担も大きくなってしまふ。早いうちの治療であれば短期間で軽い治療ということもあり、その辺りを伝えていきたい。市の検診は安価なので、是非受けてほしいと伝えているが、安かろう悪かろうのイメージもある。スクリーニング的な内容になることもあるが、その中で何か少しでもおかしいところがあれば、紹介状を出して次に進んでいただく。早期発見で小さなものから何かを見つけていただけて次に進んでいただければ、回復は早いということを伝えてはいる。中々そこに目を向けていただけないということがあるので、情報の伝え方も工夫したり、市民の方からの声掛けも効果的と思うので、ありがたいと考えている。

●近藤先生の考え方はどう思われているか。

●審査には関係ない質問であると思われる。

●予算にのぼり土台購入とのぼり旗の委託料が計上されているが、今ある程度あるようだが、新規に購入するのか。

⇒のぼり旗は借用していた。ユニフォームだけは個人負担で購入した。

●先進医療の視察で研修したことを、啓発活動にどのように活かす計画なのか。

⇒がん検診の実情やがんという病気に対する理解を自分達自身もふかめるための勉強会、健康のために、がんと言っても食や運動など色々な関わりがあるので、そのような学習を自分たちで知っていこうと、先端医療の勉強など色々なことを勉強するための、がんに対する重要性を認識するための勉強と捉えている。

～ 休 憩 ～

あ、大島を元気にする会「大島八十八ヶ所ルート周辺整備」

団体から、提案内容について説明。

- 実施するときに、大島のコミュニティなどと一緒にやっているのか。

⇒我々だけではなく、コミュニティの方々をお願いをして、草刈りの道具をお願いするなど、多分にある。コミュニティ側にもイベント等で日程が合わないこともあるなど、年間の調整をしながら行っている。

- 草刈りは、年に何回行うのか。

⇒2回から3回の予定。様子を見るために訪問した際に、プレートの交換や祠の修繕等も含めてやっていきたい。

- オルレコースについても、コミセンと一緒にやられているのか。

⇒行政や地域の方がメインで、我々は補助的な役割。先日の式典にも参加させていただき、歩いてみて、今後の活動にできることがあればやっていきたい。

- 行政として、ボランティアに行く際の渡船料を免除するなどにはできないのか。

⇒結論から申し上げるとできない。会計が別になり、渡船は営利行為なので赤字は出せない。現状は赤字分を他の会計から補てんしている。できるとしたら、こちらから補助金を出すなどして、ただ渡船の補てん分も当課の予算から出している、という状況。

- 4年目ということで補助率が半分になる。かなり自己負担があるので、今回の審査とは別に、何らかの補てんや支援が考えられないか。

⇒ご指摘のとおり補助率が下がる。交通費だけで既に赤字になっている。島に渡るということでこのような状況が起こり得るということで、そのようなお話をいただきながら、折角良いこととしていただいているのに、このようなところで手出しがあると気持ち的にも削がれてしまうことにもなりかねない。制度の見直しを含めて検討させていただきたい。本土側とは事情が違うので。

補助終了後も活動は続けていきたい。本来のボランティア活動にもどるとのことだとは思いますが、何らかの支援をいただけると大変ありがたい。家族も含めての参加など、参加者も増えるかもしれない。

- 会員のほかに、その家族も大島に行くこともあるのか。

⇒小さい時に一回行って、この機会に再度訪れた。その印象が良かったので、家族を連れて行くということもあるようだ。

い、九州女子大学人間生活学科「大島のコミュニティ形成と生活を発展させる」

団体から、提案内容について説明。

- 前日から泊まるが増えているが、学生の感想などはあるか。

⇒前日から参加の場合は、仕事があってその手伝いに行くか、若しくは朝早くから仕事をしなくてはならないので朝一便では遅い、例えば七夕まつりであれば朝6時半ころから飾り付けを始めるなど。私たちが泊まるのは行事の前なので、島民のみなさんは忙しいので接待はなく、自分たちで勝手にコミュニティに泊まり、食材を持ち込んで食事を済ませている。その時にコミュニティの方とはお話をさせていただくが、島民の方々とはなかなか難しい。そこをもう少しどうにかできないかと考えている。先日の千人参り

の時は、若者が沢山いるので、いろいろお話をさせていただいたようだ。学校からも演習費として支出しているもので、活動は可能になっている。この補助金でより多くの学生が参加できるようになっている。

- コミセンに泊まるということだが、島の人と交流したり島の生活に自分たちの勉強の成果を結び付けるという意味で、民泊は考えられないか。

⇒実施しようとしたが、行事の前日なので迷惑になるようだったので。行事のない日であれば、反省会の名目などで交流を深めること目的に可能かもしれない。

- 敬老会でも歓迎されたとのことだが、また子ども達との交流もあったが、6年目からはどのようにお考えか。

⇒授業としてやっているので演習費がある。1人1回位は行ける。その中で行きたい人が1,2回行く、準備はみんなでやるということになるか。学外での演習になるので、大島だけでなく色々な所に出向いているが、その中のウエイトが少し小さくなるだけで、細々でも続けていきたいと考えている。学生で宗像市民が増えれば、交通費も削減できるので、もっと頻繁に行けるかもしれない。学生も大島が好きなので、続けられると思う。

う、宗像ライフセービングクラブ「離島自然資源活用による交流活性化事業」

団体から、提案内容について説明。

- 次年度以降の事業の概要について、島民による自主的運営の模索とあるが、そのような方向に行っているか。

⇒補助金は終了するので、今後協力し合いながら共同でやっていけたらと考えている。道具も高額なので、きちんと取っておけば毎年使える。うまくいけば10年近く使えるので、そのようにしていきたいと考えている。

- 事業には、子どもだけでなく大人も参加しているか。

⇒大人も参加している。

- 需用費で378,000円計上されているが、前年はティピーを購入しているが、今回は何を考えているのか。

⇒今回もティピーを。24フィートの大きなティピーがある。それと12フィートを追加購入したい。前は2班に分かれて使用したが、できるだけ一緒に使って寝た方が、交流も深まるので。

- 前回の、島民の子どもと島外の子どもの数は。

⇒島外が12,3人程度、島内は殆どの子どもが参加したので、総勢で25,6人規模になった。交流についての反省点もあるので、それを考慮してもっと交流が深まるようなプログラムを考えている。

- 今年度シーカヤック、バナナボートが出ているが、どちらかというとな参加者は子ども達で若者ではない。その種目が地島や大島に適したものなのか。

⇒今までもマリンスポーツ体験を市の委託事業でやってきている。適したものしか選んでいない。それに加えたプログラムも加えていきたい。

- その委託事業について、もう少し詳しく話していただきたい。

⇒5月18日に実施した地島マリン体験で、対象は小学生以上だったが、親子で参加されるなど年齢層も幅広かった。50歳位の方も、一度やってみたかったと参加された。マリンスポーツは器具が高いので、なかなか機会がない。複数の種類を一緒に、という機会も少ないので、参加いただくと好評をいただいている。

島に来たこともない方もあるので、島のPRにもなる。

- 購入した器具は、島に関して使用するのか、江口などで実施している事業にも使うのか。
⇒島に関する事業のみ。マリンフェスタの際にティピーを立ててPRしたいと思う。
- 予算書の自己負担が記載されていない。
⇒記入漏れ。112,200円となる。クラブの予算から捻出する。

え、宗像アウトドアクラブ「大人の社会見学（島編）」

団体から、提案内容について説明。

- 原材料費について、20人を想定しての金額か。
⇒20人規模で考えている。
- 1人5,000円近い金額になる。
⇒燻製に関しては、簡易式の燻製機を参加者1組ごとに付けて、自分で燻製を作ってもらおう。その器具も含む。コーヒーについても、原材料の豆やガスもあるので。
- 昨年地島のキャンプに参加した大人で、非常に楽しかったと聞いているが、申請者から見て地島や大島の魅力とは。どんな所を参加者に感じてもらいたいのか。
⇒島が好きで、20年ほどサーフィンをやっているが、その時から地島に行き来している。波や自然に魅力を感じていた。島に来られた方は、みんな喜んで帰られる。自然も人も良いので、来たら虜になる。イベント以外でも大島に家族で泊まって来たりする友人もいる。一度足を運べば、必ず魅力にとりつかれると思う。

～ 休 憩 ～

18、NPO法人改革プロジェクト「若者主体の新しい地域づくり事業」

団体から、提案内容について説明。

- 若者を対象にした取組とのことだが、パトランの場合は年齢的なもので絞り込んでいるのか。
⇒制限は設けていないが、自然と大学生や20代の女性など、ランニングをやりたかったけどできなかったという人が集まってくる傾向がある。
- 告知はどのように。
⇒フェイスブックやユーチューブなど若い人向けの媒体に情報を発信している。そうすることで若い人が集まる、若い人に情報が届くということになる。
- 実績として、パトランの1年目から2年目にかけてどの程度増えたのか。
⇒パトランを始めて1年4か月になるが、最初は3、4人、最近は平均で12人程度集まってくれている。
- 続けてやっていただいている方は何人くらいか。

⇒ランナーとして登録いただいているのが 15 から 20 人くらい。

- 今年度は紙媒体による告知に力を入れるとのことだが、どのような所に配布する予定か。

⇒昨年度からの継続で、公共施設、店舗などを考えている。

- 自己資金の原資は。

⇒市からの委託事業など、その他の資金から。

- 視察について、竹の有効活用とあるが、現在でも里山再生などの市民活動団体もあるが、そのような所との連携は考えているか。

⇒これが宗像に必要なか調べることから始めて、専門の団体と協力してやっていくことは考えていきたい。

- 外来種駆除活動とあるが、具体的な内容は。

⇒今は実例はないが、以前は釣川のジャンボタニシやブルーギルをメインに駆除していた。昨年度は実施していた。

- 継続希望がないということだが。

⇒今年で 3 年目になるので。

- 来年度以降の活動は。

⇒補助金に頼らない活動を、今年 1 年かけて考えていきたい。

2 3、特定非営利活動法人ゆめみらい NIPPON「宗像の魅力を活かした交流活動 むな恋」

団体から、提案内容について説明。

- 人と交わる時間を大事にするということで会場を変更したことは良いことと思うが、講義がある。講義をして頭で覚えてではなく、男女が交わる時間を多くするというのをメインにしないと、そのようなことは大島であまりにも時間がなかったということで、それを踏まえると講義はできるだけ少なくして、お互いに顔を合わせた人たちがどういうふうにしていくかといことに割いた方が良いかと思う。

⇒今の若い世代は、コミュニケーションが取れない方が多い。出会うのは出会う。その後をどう仕切るか、というのがなかなか今の方々はできない。イメージはあるが、どうやって乗り越える力を付けるかというのを、勉強という部分で講義があって、その後レクリエーションを行って、そして料理という 3 段階を踏まえて 1 日としたいと考えている。そうしないと、3 年間やって来た中で、今までできなかったことを集大成として、しっかり学んでもらいたいと考えている。

- これまで 15 回の取組を行ったとのことだが、参加者数は何人か。

⇒事業にもよるが、1 つの事業に関して 15 組から 20 組、今回のような 25 組などを年 5 回行っている。

- 実績として 3 年間で 5 組の成婚、3 組が宗像に定住ということだが、この結果を如何に捉えているか。

⇒報告という形で頂いてはいるが、結婚されている方はもっといるかと思うが、このような団体で結婚したことが恥ずかしいという方もいらっしゃることで、オープンに見えるがそうではない方々もいるのが現状。事業を見に来ていただいてもよいかもしれないし、その中で我々はボランティアで、まずはあいさつからとか、それが正直なところで、

そこからスタートしている。

過去の実績3年間で5組というのは、去年一昨年の補助金をいただいた事業での結果で、これまでの15回のイベントはそれぞれの参加者に費用負担をしていただき、山登りの婚活でもカップリングの成立はあった。過去を遡ると成婚率は上がるが、補助事業における成婚率が今の結果であるということ。講師をなぜ呼ぶかというところであるが、プログラムの中では出会いの場を与えるのが一つで、そこでフリートークさせるところで、固まって話さない方がいたり積極的に話す方がいたり、3割位しか率先して話す方が見られない。それをたきつけるというか、何かアクションを起こすということで、同じ好きなもの同士でグループをつくったりという風にやってきたが、そういう風で少しずつ話が弾んだりしてきたが、今回の講師は婚活のスペシャリストでもあり、今まで出逢いの場を与えてちょっとした後押しができる話ができる、ということもあったので、あえてこのようやってみたいと考えている。今後は、我々が講師の役割を果たせるようになりたいと思う。

●講師が講演をするのではなく、コーディネーターをやっているということか。講義ではなく、出会いの場で、話が下手とか引っ込み思案の方とかを結び付けるというリーダーシップを発揮している人なのか。

⇒講演を行いながらアドバイス、今回も1日の時間の中に、講義を終わったあともイベントに参加いただくことになっている。

婚活と言えど、異性同性問わず、最初のコミュニケーションが不足している方がいるということがあったので、その紐解きというか、人とのコミュニケーションの仕方ということも踏まえた婚活の話と持ってきてもらうので、後押しするから実践に移せるという話にしてもらおうと思っている。

●15回イベントをしてきているが、補助金がないものはどのように資金調達をされていたのか。また、ポスター、チラシがかなり多いが、どこに配られるのか。カード類とは何かを伺う。

⇒チラシについては、回覧による配布。女性が働いている場所。学校、幼稚園保育園関係など、目につくようなチラシの配布を考えている。カード類とは、イベントで必ず行っているが、それぞれの名札をまず作る。その中に、イベント中にこの方ともっと近づきたいお友達になりたいという方に渡すアプローチカードを参加者に5枚から10枚渡している。ここで自分の連絡先を渡す。その後連絡があれば、友人として進むルールを決めているので、それに則ったカードになる。最終的には告白カードといって、イベントの最後に、今日一番この方と親しくなりたいという異性の方の番号を書いてもらうというように、それぞれカードを分けてイベントを作っているので、それに使用するカード。

●予算ではポスター400枚となっているが、事業計画では配布箇所が50カ所となっているが。また貸切バスについて、東郷からメイトムと思うが、それが必要なのか。チラシは赤間側の配布を予定されているが、人数が少なければバスの必要はないのではないのか。

⇒ポスターの掲示先によっては、1枚では足りない場合もあることから、昨年度の実績

も考慮して増やしている。参加者を募るのは大変難しいので、チラシ配布方法も含めて見直しを行った。バスについては東郷駅と書いてはいるが、赤間駅や東郷駅、主要な所へ迎えに行く形を取っている。巡回という形を取って、車持っていない方もいるので。一堂にバスに乗っていただいて会場まで送る方が、時間も限られているのでスムーズに、という意味でバスを利用してもらって、確実に会場まで来てもらう。

バスについては、参加対象者を宗像市に在住、在勤及び実家がある方としているので、市外の方もいらっしゃるということで、電車で来ていただいて赤間、東郷に迎えに行くということも考えている。

●電車で来る分については、どこかの駅に決めておけばよい。東郷駅か赤間駅かと。このイベントはアルコールは出るのか。

⇒出ない。

●そうであれば、車の方はそれでよい。

⇒車を持っていない方もいる。もう一つは、ここにキチッと集まっていたいただいて、一斉に来てもらった方が、最初の開会からスムーズに行ける場合もあるので、その部分が大きい。

●だからバスが必要なのか。例えばタクシーで、20名程度であれば。

⇒他にもバスでのイベントを行うが、その中で諸注意などを伝えている。そのようなことも込めで、バスで迎えに行っている。バスの中にも少しプログラムを入れている。バスの中で少しほぐして。

補助金対象外の事業については、基本的には個人負担でお願いしている。山登りだと弁当代から保険代等、食事がある場合は会費が5,000円程度になる。ワイン婚活等は食事費用、その時にはお酒が出るということで送迎バスを使うが、それらを個人負担していただく。どうしても個人負担が高くなってしまっているというのが、これまでやっている事業になっている。NPOとして、宗像が好きだからということで、定住化を求めた活動をやっているなので、できるだけ安く参加してもらいたい。山コンにしても参加費1,000円など、参加しやすい価格で毎回行っている。

●講師は有名な方なのか。

⇒一人は、昨年も来ていただいた料理の古川先生。よくテレビにも出ている。去年のイベントでも参加者は非常にほぐれて、良い事業だったと思う。

●もう一人の方は、資料が配布されているが、メンバーの方は聴かれたことがあるのか。人まち事業としては、講師料が破格なので。

⇒聴いたことはあるし、メンバーもよく知っている。説得力もある。他の方も検討したが、最終的にこの方ということになった。

24、メイクハッピー&ピース「学習サポート事業」

団体から、提案内容について説明。

●担当課に何うが、不登校については対応が難しいということだが、小学生の発達障害を対象とした施設などはないのか。

⇒現状を申し上げますと、小学校であれば特別支援学級で、発達障害も含めた知的や情緒

障害に対応している。そこに入って指導を受けられるお子さんについては、その前段で就学指導委員会で判断されて、保護者了解の元でそこに入って指導を受けられる。そこまではなく通常学級でも大丈夫という方も数多くいらっしゃるが、学習障害や特別な支援を要する方もいらっしゃるの、その方については学校によっては飛び出し等に対応している所もあるが、それぞれハード面や人的な面があるので、全て対応できているかという訳ではない。そのような状況があるので、このような団体が支援していただけるのであれば、保護者も気軽に学習サポートを受けることができるということは、大変良い事業と思う。

●学校で支援のクラスなり先生がいて、それを受けたり受けなかったりしながら、こちらの方も受けているということか。

⇒放課後や夏休みなど。授業の理解に時間がかかるということで、そのような機会が増えれば、本人にとっては有意義であろう。

●発達障害といっても色々あり、判定も難しいと聞いている。このように指導していただければ、親にとっても子どもにとっても大変良いと思う。集団指導は今年初めてか。今年度から集団サポートを長期休暇にするということだが、頻度は何回程度を予定しているか。どの位の子どもさんが参加するかわからないが、スタッフは何人くらいを考えているか。

⇒集団サポートに関しては、夏休みに1回モデルという形でやってみる。その結果を持ち帰って2回目3回目の企画にフィードバックしたいと思っており、今のところ週何回とか定期的という形まではまだ立てていない。できる範囲のところからやっというと思っている。関わる人員については、集団サポートだけで10人から15人ができる。今は小学校2年生くらいまでを対象にして、色々な子ども達がいることが想定されるので、子ども1人に対して1人のスタッフが付くような体制にしている。

●会場使用料について、どこの会場を考えているか。

⇒昨年度から赤間宿にある古民家を使用している。

●昨年度の例で、行きたいけれど断られたというケースはあるか。

⇒今のところは、希望されている方は全員受け入れられている。時期によっても急に集中したりとか、対応できないことも考えられるが、対応できる状況で受け入れていた。

25、プリズム「ハンディキャップ・発達障がい」の今を学ぶ」

団体から、提案内容について説明。

●養成講座が6人となっているが。

⇒先生を午前午後で2人呼ぶようにしており、お一人ずつで3回なので、6人となっている。

●9月から12月となっているが、4回開催するのか。

⇒毎月ではなく、その期間に3回行う。

●ポスター50枚110,000円となっているが。また、チラシは講演会と講座となっているが、これは別のものか。

⇒ポスターだけでなくチラシとポスターの印刷を含む。講演会と養成講座のチラシにな

る。ポスターは講演会だけの予定。学校に配ると足りないのでは、白黒のものを準備する必要もあるかもしれない。掲載料は、フリーペーパーに載せることになると思う。昨年度の事業では、掲載したところかなり沢山の方に来ていただいて、効果があったということで今回計上している。旅費について、市内と市外のメンバーの2パターンを用意している。

●講演会は、何人程度参加予定か。

⇒今回の講演に関しては、講師が身近に感じて話をしたい、パラリンピックの競技用の自転車も持ってくるという予定で、50人程度が望ましいとのことだが、できるだけ多くの方に集まってもらいたい。

●講演会の日程について、学校の先生も参加できるような設定ができるよと思うが。

⇒計画時は地域の方ということだったので平日を考えていたが、学校の先生に来ていただけると嬉しいので、検討していきたい。7月20日で会場は押さえている。小学生にも面白い話と思う。

●予算の参加費300円について、もう少し詳しい説明を。

⇒養成講座の受講料として考えている。1回の参加料。

●市外から参加するスタッフもいるとのことだが、この方たちも代表が参加されたあすばの研修を受講されたのか。

⇒そうではないが、地域リーダーとして活動しているので、子育て支援や男女共同参画なども関わっているし、発達障害を支援する団体とも活動しているようなので、共感して活動していただいている。

26、地域freepaper smell「まぢめぐりマーケット in むなかた」

団体から、提案内容について説明

●当日の駐車場はどのように考えているか。

⇒赤間地区のコミュニティ・センターを使用させていただく。

●古民家の開放については、了解は得られているか。

⇒得ている。

●集客はどの程度を考えているか。赤間コミセンの駐車場もそれほど広くないが、日常の利用者で満車に近い状態になる。

⇒コミセン関係者とも協議させていただいている。また、赤間宿になるので熊越池公園や田久桜公園の駐車場も考えている。駐車場には誘導スタッフを配置する。

●赤間コミセンとの打ち合わせは、いつ頃されたのか。

⇒4月に事務局長と行った。

●次回を10月か11月をとということだが、観光拠点施設が11月にオープンの予定。それとの関連をどうするか。通りを車輛通行止めにする 것도考えているので。

⇒地区のことが優先されると思うので、考慮して日程を決めたいが、地区の方々と協力して何かできないかも考えていきたい。

●このような取り組みは、他の自治体でも実施したことがあるのか。

⇒今回が初めて。

- ポイントになっているところは、現在は空き家なのか、何か店舗が入っているのか。
⇒1ヵ所が空き家、それ以外は店舗など。
- 出店者は赤間地区で営業している方か。
⇒その方もあれば、他地区で営業している方もいる。

～ 休 憩 ～

2. 検討会

①個別事業検討

【103会議室分】

全審査員の得点の50%に満たない場合は、不採択となる。

1、みさき寺子屋の会について

「今後は、自主財源の確保に工夫をした組み立てを考えること。」を特記事項として、採択とする。

2、玄海寺子屋にじいろの会について

「他のコミュニティなどへの情報発信を積極的に行うこと。」を特記事項として、採択とする。

3、NPO 法人幸せな家庭環境をつくる会宮若支部について

「ファミリー運営から脱皮し体制づくりを行い、また、参加費や経費を定め、今後の運営に安定性を持たせること。」を特記事項として、採択とする。

4、あおぞらくらぶについて

「HP 作成費については、補助対象経費外とする。」を付すべき条件として、「団体内活動だけでなく、市民への広がりが必要。HP については、使い方や内容についてよく検討したうえで、再提案すること。」を特記事項として、採択とする。

5、東海第五高・宗像高定期戦実行委員会について

「他の競技への波及を期待する。市民参加型のスポーツ体験事業を野球以外のスポーツでも行えるように。」を特記事項として、採択とする。

6、玄海ニュースポーツを楽しむ会

「体験者の相互研修などで、ニュースポーツの基盤づくりをお願いする。」を特記事項として、採択とする。

7、MVCについて

「大学との連携づくりを行い、また、学生の主体性を一番にし、時間をかけて見守り、育てる姿勢を大切にすること。」を特記事項として、採択とする。

8、宗像市消費者交流会について

「学びの成果をぜひ地域へ活かすこと。」を特記事項として、採択とする。

9、鐘崎マルシェ企画運営委員会について

「コミセンとの協働を充実させること。」「地元事業者との調整をしっかりと行うこと。」を特記事項として、採択とする。

10、笑顔について

「広報をもっと積極的に行うこと。」を特記事項として、採択とする。

11、宗像音楽倶楽部ふれあいについて

「資金面を工夫し、今後も活動を継続してほしい。」を特記事項として、採択とする。

12、Eg ブレンダーについて

「バーベキューの食材費は補助対象経費外とする。」を付すべき条件とし、「定期学習会への参加が増える工夫をすること。」「チラシを含め、広報の工夫をすること。」を特記事項として、採択とする。

お、社会福祉法人さつき会について

「販路拡大のためにも、市民に愛される商品の開発を目指す。」を特記事項として、採択とする。

か、公益社団法人宗像青年会議所について

「大島の子ども達がより多くステージ参加できる工夫をすること。」「将来的には、大島在住の方ができるだけ多く参画できることを期待する。」を特記事項として、採択とする。

き、地島キャンパスの会について

付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

く、元気な島づくり協議会について

付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

13、国立大学法人福岡教育大学について

「宗像市民の参加が増える工夫をお願いします。」を特記事項として、採択とする。

【202会議室分】

(午前中審査分の一部は、休憩後 12:45 から検討)

全審査員の得点の 50%に満たない場合は、不採択となる。

14、里山歩きの会 SUN 愛 MUNAKATA について

「作成したマップの普及に努め、積極的に活用すること。」「子どもの参加を増やすための PR を工夫すること。」を特記事項として、採択とする。

15、宗像カノコユリ研究会について

付すべき条件、特記事項なしで採択とする。

16、福岡やま繭の会について

付すべき条件、特記事項なしで採択とする。

17、がんばれ宗像!!について

付すべき条件、特記事項なしで採択とする。

18、NPO 法人改革プロジェクトについて

「補助金終了後も事業継続できるよう、収益の確保を期待する。」を特記事項として、採択とする。

19、あいさつ運動について

「既に活動を行っている団体との情報交換をし、連携して進めること。」「コミュニティ運営協議会と相談し、協働での事業実施を検討すること。」「パトロールの時間帯については

弾力的に対応すること。」「年度内に他に1地区でも実施できるよう努めること。」を特記事項として、採択とする。

20、すこやかライフサポーターについて

得点が50%に満たないため、不採択とする。

21、シャイニングハートむなかた

「講演会の飲み物の経費は補助対象外とする。」を付すべき条件として、採択とする。

22、金海・むなかた親善の会について

「補助金終了後の活動のために、参加者のOB、OG組織を作り、以降の事業にも関わるような体制を検討すること」「補助金終了後の活動の継続のためには、個人負担の増額を検討すること」を特記事項として、採択とする。

23、特定活動法人ゆめみらいNIPPONについて

「貸切バスの経費は補助対象外とする。」「プログラムや横断幕などの経費の縮減を検討すること。」を付すべき条件として、採択とする。

24、メイクハッピー&ピースについて

付すべき条件、特記事項なしで採択とする。

25、プリズムについて

付すべき条件、特記事項なしで採択とする。

26、地域freepaper smellについて

「事前に地元商店などの理解を得られるように協議しながら事業を実施すること。」を特記事項として、採択とする。

あ、大島を元気にする会について

付すべき条件、特記事項なしで採択とする。

い、九州女子大学人間生活学科について

付すべき条件、特記事項なしで採択とする。

う、宗像ライフセービングクラブについて

「補助金終了後、クラブと島民との協働事業化に努めていただきたい。」「将来的には、島民による自主運営の可能性を模索していただきたい。」特記事項として、採択とする。

え、宗像アウトドアクラブについて

得点は40点。「原材料費の縮減について検討すること。」を特記事項として、採択とする。

～ 休 憩 ～

②全体検討

202会議室座長の東会長から、審査の経過と結果報告。

103会議室座長の松永副会長及び井上委員から、審査の経過と結果報告。

●ライフセービングクラブについて、団体と島民の協働、そして将来的には島民の自主運営とあるが、それが繋がらないように思うが。

⇒キャンプの部分と海洋スポーツがある。それぞれで担える役割があるということ。テン

トの管理も島民がされていて、自主的なイベントにも活用されているようだ。
それぞれの審査結果のとおり、承認された。

2. その他

①2次募集について

人まち事業分で、2次募集を実施するか否か、事務局で検討をすること。

= 散 会 =